

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21年 8月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	0174700732
法人名	医療法人社団柏木内科医院
事業所名	グループホームあさひ
所在地	〒089-0602 中川郡幕別町旭町2-4-72 (電話) 0155-54-6696

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年8月4日	評価確定日	平成21年8月31日

【情報提供票より】 (21年7月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 3月 23日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人				
職員数	12人	常勤	12人	非常勤	0人	常勤換算	12人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての 1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円			
その他の経費(月額)	5,000~			
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 有りの場合償却の有無	有 / 無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (7月 10日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	6名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	73歳	最高	102歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団柏木内科医院・啓和会黒澤病院・木下歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関前には色鮮やかな花が植えられ、地域の散歩する人や道行く人達などを和ませ、裏の花畑はひまわりとコスモスが満開に咲いていて国道を走るドライバーをも楽しませている。この畑は地域住民が耕し、利用者家族の堆肥提供があったりと花畑も菜園も地域住民と利用者や職員が一体となり作りあげたものである。利用者の日常生活は落ち着き、ゆったりとした日々を過ごしている。管理者職員は1人ひとりの状態を把握し、共通の理解を持ちケアの継続ができるように会議を持ち話し合いを重ねながら実践をしている。また、母体組織が医療法人であるため医療との連携が密で、家族の安心に繋がっている。さらに災害時の避難所が駐車場となっていたり、炊き出しを担っている等している。地域との密着が根付いている事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の課題である、他の同事業所との相互交流を図るように、現在検討中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全員が関わり、管理者がまとめて結果を全職員が共有し、運営推進会議に報告し助言を頂いて職員会議で検討し改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は本年より2カ月に1回行われ、行政、家族代表、町内会代表、連携歯科医師、事業者、職員、同事業所職員等で構成されている。自己評価や外部評価、利用者の状況、行事報告や予定を報告し、職員の研修を参加者に報告し家族や参加者から喜ばれた。会議で出た意見は職員会議で検討し改善するなどサービスの向上に活かしている。
	重点項目③ 家族に意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月「あさひだより」を発行し近況を報告している。事業所に利用料を家族が支払いに見える際に、意見、苦情、不安があれば言い易い雰囲気作りに努めている。意見、要望が出れば速やかに全職員と情報を共有し改善に取り組んでいる。運営推進会議にも家族代表が入っているのでその席でも言ってもらえるようにしている。外部の苦情相談窓口を事業所内に掲示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に入会し、地域の運動会に参加している。事業所の除雪、畑作、フリーマーケット、七夕焼き肉等のボランティア訪問もあり、地域との交流を積極的に行っている。駐車場が災害時の避難場所にもなっていたり、災害時の焚きだしを坦ない、事業所独自に食糧備蓄をしている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で一人ひとりが安心した生活の中で尊厳とプライバシーを守り、地域住民の一員として地域の人々と交流を図れる事業所を目指し、それに添った理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は申し送りや、ミーティングで話し合いを重ね理念を共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、自治会運動会への参加、ボランティア受け入れ、畑耕しや野菜や花植えなどのアドバイスを頂いたり、冬季除雪のお手伝いもして頂いている。事業所主催の七夕、バザー、収穫祭等の参加や、災害時には事業所駐車場が避難場所となり、「子供110の家」も担い、地域の人々との交流に積極的に努めている。		
あ					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員が関わり、管理者がまとめて結果を全職員が共有し、運営推進会議に報告し助言を頂いて職員会議で検討し改善に取り組んでいる。自己評価、外部評価結果については誰でも見られる場所に置いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に生かしている	2ヶ月に1回開かれている。事業所からの報告では研修参加の職員が運営推会議に出席し研修内容を発表し、家族や地域の方に喜ばれている。評価への取り組み状況などについて報告し意見を頂いている。会議で出た意見は職員と話し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域のケア会議に参加し、必要に応じて相談や指導を受けている。事業所が介護認定審査会の委員を担っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りには行事の写真を載せ利用者の様子を知らせている。心身の状態などによって電話による報告もあるが、家族の訪問が多く利用料を家族が持参しているのもその都度個々に合わせて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には、苦情や相談を言いやすい雰囲気づくりに配慮し対応をしている。また運営推進会議には家族も参加され意見をいただいている。内外の苦情相談窓口は掲示され、重要説明書にも明記されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えるように配慮している。代わる場合はシフトを組み換え利用者のダメージを少なくする為に馴染みの職員が係れるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の研修や他の事業者研修会、学習会等に参加し、できるだけ多くの職員が出席できるようにシフトを調整している。研修後会議で発表し、テキストの回覧するなど、同事業所内での研修を図りながらトレーニングをすすめている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修や学習会等に参加し、できるだけ多くの他事業所の職員と交流をし意見交換を行っている。相互訪問も検討している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込者は運営者（医師）と面談し納得して頂いて入居となる。管理者は利用者や家族に訪来して頂き、職員や利用者との馴染める場面を作るよう工夫している。病院から移動の場合は家族や、知人等に訪来をお願いしたり、生活習慣を継続できるようにし、馴染めるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はこれまでの生活歴や経験を大切にし、料理、畑仕事など得意な場面では教えていただくことが多く、ともに支えあい信頼関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、職員は利用者の希望や意思の確認し、意思表示の難しい利用者からは表情を読み取るなどし本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用し、細かなアセスメントを行っている。職員はカンファレンスを行い本人と家族の意見や要望を聴いたり、かかりつけ医の意見も聴きながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直すとともに利用者に体調変化が生じたとき必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護タクシーを利用し、花見、菊祭り等に出かけたり、要望に応じて墓参りの支援もしている。運営者が医師なので訪問医療や訪問看護があり、入院を回避し、家族の負担軽減に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体組織が医療法人であり本人と家族のかかりつけ医となっている。協力医療機関とも連携が密に図られ、歯科、耳鼻科などの往診が受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	身体状況の悪化が予想される場合は本人や家族と話し合いながら方針を共有できるようにしている。必要に応じて家族や医師とも話し合いを密に持ちながら全職員で方針を共有し対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し言葉かけや日常生活動作にも配慮しながら支援している。記録等の取り扱いは事務所でプライバシーに配慮した対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の決まりごとではなく、お天気が良ければ散歩や買い物に出かけたり、無理強いすることなくその日にやりたいこと、やりたくないことを確かめながら 過ごせるように支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の好きな利用者は職員と共に準備をしている。利用者の好みや体調合わせ献立を工夫し、畑での収穫物なども食卓に上がり季節を感じながら食事を楽しんでいる。後片付けも職員と共にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は定めているが、状況や希望や体調に応じた対応をしている。入浴時は1対1の話が聞ける時間とし、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室で鉢植えを育てたり、ビデオで演歌や時代劇を観賞したりしている。食事の準備、片付け、洗濯たたみ、野菜や花を育てるなど役割や楽しみが持てるように支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気が良ければ散歩や買い物に出かけたり、希望に応じてドライブや同母体組織が運営する事業所を訪問するなど戸外に出る機会を設けるように支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を管理者、職員は理解をしている。見守りをし、出かけた様子ときは職員と一緒に付き添うなどし、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の訓練を行っている。職員は2階から利用者を1階まで下ろし時間を図って訓練をしている。地域住人も防災訓練に参加している。事業所前の駐車場は地域の避難所になっていて炊き出しの担当をしている。事業者も食糧備蓄を協力をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量、排出量などを記録している。水分が取れない利用者にはジュースや乳酸飲料など好みに応じて対応し、栄養摂取は栄養補助剤などを個々に応じて支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	騒音や遮光に心掛け、廊下や出窓に鉢植えを置き、壁には行事の写真や利用者の作品が飾られている。居間には季節ごとに飾り付けをし季節感や生活感を味わえるように工夫をし、居心地良く、穏やかに過ごせるように工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇を置いたり、冷蔵庫が持ちこまれたり利用者の使い慣れた物を家族と相談しながら活かし、本人が居心地良く過ごせるように工夫をしている。		

※ は、重点項目。